

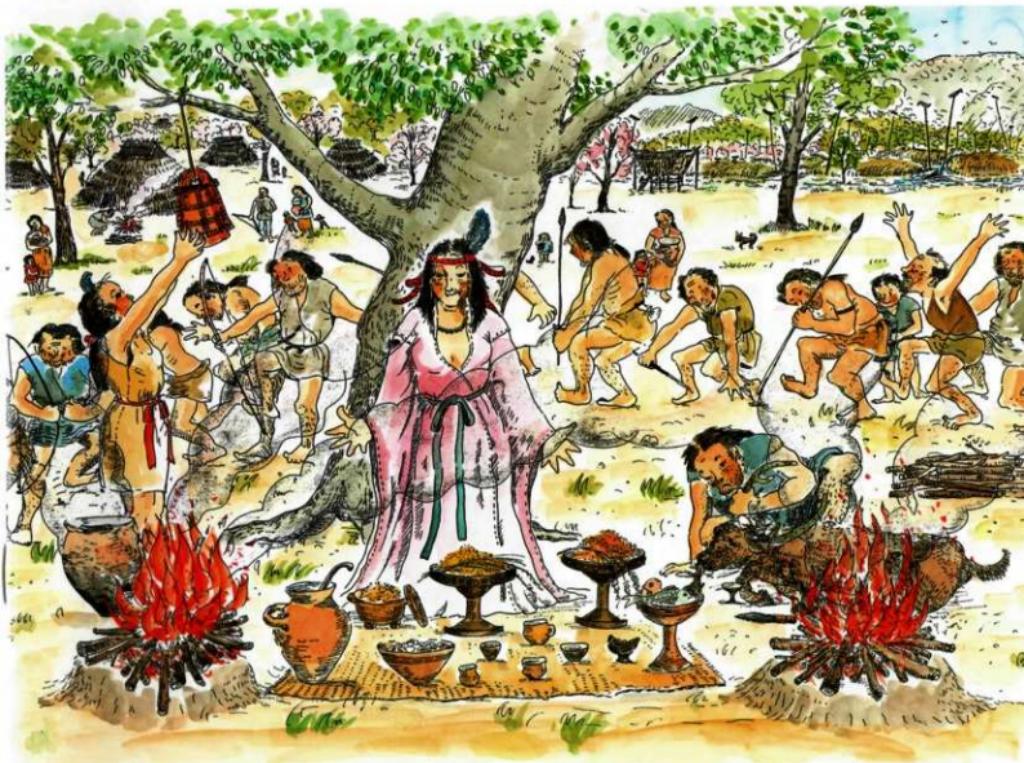


A Yayoi Bird

第16回特別展

がんばる弥生人

—— イラストで見る雁屋遺跡 ——



四條畷市立歴史民俗資料館

がんばる弥生人

雁屋遺跡



風にゆれる赤米

コメは縄文時代前期に大陸からもたらされたといわれています。しかし稲作が広まるようになつたのは弥生時代前期になってからです。

コメは人が管理しなくては生育しません。かぎられた道具を使っての田や用水路の開発。虫害や日照りや台風などの自然災害の対策など、苦労の連続だったことでしょう。



4次調査：雁屋遺跡の始まりを告げる土器
縄文時代晩期

縄文時代の四條畷市は、讚良川の付近にある更良岡山遺跡で縄文時代中期から晩期まで長いあいだムラが営まれましたが、このムラは丘陵上にあって稲作に適していません。

更良岡山遺跡の縄文人は、稲作に適した低地の雁屋から江瀬美地区へと生活の場を移したのでしょうか。更良岡山遺跡は弥生時代を迎えることなく消滅してしまいました。

雁屋遺跡は弥生時代前期に北河内でもいち早く稲作を導入しました。そして中期には拠点的集落として機能しました。

近畿地方の弥生文化を特徴づける方形周溝墓からは、大きな木棺が見つかり、墓をとりまく溝からは死者に供えられた朱塗り土器・木製四脚容器、死者を運ぶタンカ、魂を運ぶ木の鳥などが出土しています。その他、火災にあった竪穴住居や刳り抜き井戸なども見つかっています。

このように雁屋遺跡の発掘調査は幾度もおこなわれ貴重な資料が得られています。今回の特別展で今までの成果を一堂に展示します。

会期：平成13年11月1日(木)～12月2日(日)



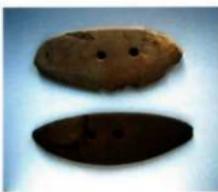
雁屋遺跡周辺地図



コメは壊れた食品です。おいしいうえに保存がきく便利な食料です。コメの導入によって生活が根本的に変わりました。



1次調査：板付II式大壺：前期
高さ67cm



稻の神さまの
使いをするよ



1次調査 石庖丁：前期
上は耳成山産の流紋岩製：長さ13.4cm



5次調査 曲がりくねった溝：前期：モミの跡がついた土器も見つかりました。



5次調査：紡錘車：前期



5次調査：石鎌：前期

板付II式の壺は、北九州で稲作が広まったころに使われたもので、コメとともに北九州の土器文化が近畿地方にもたらされました。この大壺と石庖丁は雁屋遺跡で稲作の開始を告げるものです。



2次調査：1号・2号方形周溝墓：中期：溝の一邊は共有



魂を運ぶよ

1号方形周溝墓は13m×18mです。一つの方形周溝墓に7～13基の木棺が埋葬されていました。棺材はコウヤマキ・ヒノキ・カヤでした。棺内には副葬品はありませんでしたが1・2号方形周溝墓の共有溝には朱塗りの壺や木製容器など特別な物が残されていました。



このコウヤマキの木棺は腐ることなくびったり組み合っているので水が溜まっています。

棺に安置される人の身長が150cm以上あれば膝を立てなくてはいけません。

2次調査：2号方形周溝墓 3号主体部：コウヤマキ材：中期：長さ2m・幅65cm
内の長さ1.5m・深さ40cm



2次調査：1号と2号方形周溝墓の共有溝：中期
墓穴を掘った猿や死者に備えられた朱塗りの土器・木製四脚容器などが見えます。



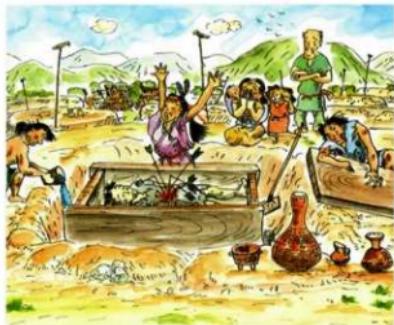
2次調査：2号方形周溝墓1号主体部：ヒノキ材：中期：
男性：身長160cm：年令40才過ぎ

お葬式では、家族は悲しみにくれて泣き叫び、参列した人はお酒を飲んだり、ご馳走を食べたりして踊り明かしました。使った土器類は溝にかたづけられました。

弥生時代はコメづくりをしながら、ほのほのとした生活をイメージしますが、なかなかそうはいかなかったようです



2次調査：1号方形周溝墓2号主体部：11本の矢じりが残されていたコウヤマキ材の棺：中期：棺の厚さは13cm



この人は戦士だったのでしょうか、気の毒なことに胸のあたりに11本もの矢じりが刺さったまま埋葬されていました。



2次調査：1号方形周溝墓 6号主体部：小児用木棺：コウヤマキ材：中期：長さ100cm
内の長さ90cm・幅33cm



4次調査：壺棺：中期



1次調査：壺棺：中期



2次調査：3号方形周溝墓 2号主体部：
壺棺：中期

母親にとって子どもの病気や死にあうほどつらく悲しいことはありません。乳幼児の死亡率の高い古代ではこのように手厚く埋葬されていることは少なかったでしょう。幼くして家族のもとを離れた子ども達の魂はどこへ行くのでしょうか。

(右端の壺棺は揖津地方の様式をもっています。これは婚姻など何らかの交流があったのでしょう)





3次調査：1号方形周溝墓西側の溝：死者を方形周溝墓まで運んだタンカ：モミ材：中期：長さ138cm：右下に鳥形木製品。このようなタンカが直列してもう一基見つかっています。

悲しいことですが、人が亡くなったらどこに行くのでしょうか？弥生人は魂の存在を信じて、鳥が空の向こうにある天国へと運んでくれると考えていました。

しかし葬送儀礼の時に都合よく鳥はその場にいてくれません。本物の鳥の代わりに木の鳥（鳥形木製品）を掲げ、愛しい人の魂を天国へと送りました。

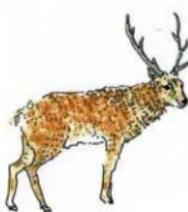


3次調査：タンカの下の鳥形木製品：ノグルミ材：中期長さ18cm。墓に掲げて死者の魂を運びました。腹部に棒を差し込む穴があります。





3次調査：火事になったシャーマンの整穴住居：直径5m：中期



焼け木を押しつけて
ひびの入り方でうらなうよ

火災にあったシャー
マンの家は垂木が放射
状に倒れその上にはカ
ヤが乗っていました。
この家に残されてい
た物は特異でした。ト
骨・分銅形土製品（下の写真の上）・穴のあい
た土器・鳥形土器などのまじないの道具でした。



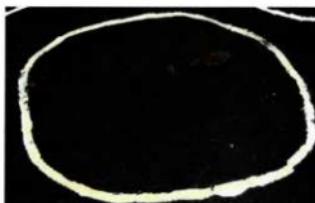
古代人はあらゆるものに神が宿ると信じて心のよりどころとし
ました。シャーマンがト骨（占い用のシカやイノシシの肩甲骨）
で吉凶をうらなったり、まじないなどをして神に祈る日々を送り
ました。

四条畷高校の発掘調査ではシャーマンの姿を描いた土器（大阪
府教育委員会蔵）が見つかっています。

3次調査
分銅形土製品：中期
左端は鹿角製玉：後期



3次調査：穴のあいた土器：中期
もしかして毒物を精製した？



3次調査：炉跡：中期
シャーマンの整穴住居の炉跡に残されたト骨



3次調査：切り抜き井戸と竪穴住居跡：中期



まつりに聖水が
欠かせないよ



3次調査：直径27cmの大きな柱：中期



3次調査：切り抜き井戸：中期：直径62cm



シャーマンの家の近くでは切り抜き井戸や大型の建物を思わず柱が見つかっています。

柱は基部に切り込みが入っていて土の中で柱がしっかりと固定されるよう工夫されています。

井戸は、1本の木を切り抜いています。内面を焦がして切り抜きやすいように工夫してありました。このような特殊な井戸は日常に使うものではありませんでした。



把手付き鉢（丹後・北陸地方産）出土遺跡一覧

- 1 四條畷市雁屋遺跡（堅穴住居跡）
- 2 出雲市西谷四隅突出型墳丘3号墓
- 3 豊岡市諒田・若宮4号墓（台状墓）
- 4 大宮町左坂15号墓（台状墓）
- 5 大宮町古土井遺跡（流路）
- 6 加悦町須代遺跡（環濠）
- 7 丹後町大山墳墓群（台状墓）
- 8 岩滝町大風呂南1号墓（台状墓）
- 9 舞鹤市志高遺跡（包含層）





2次調査：周溝墓の溝内：後期



時代の流れは
きびしい



雁屋遺跡は近畿地方でもいち早く稲作をとりいれ、北河内周辺の拠点的集落として弥生時代前期から後期まで繁栄しました。

後期には活発に地域交流をして同盟関係を結んでいたようですが、徐々に衰退し古墳時代につながることなく消滅していきました。

そのころ大和に権力が集中し、小山のような墓を築造し権力を誇示しました。古墳時代の始まりです。

四條畷でも古墳時代前期に方形周溝墓よりもっと大きい、一人の権力者のためだけに忍岡古墳が築造されました。

— 主な雁屋遺跡調査のあゆみ —

第1次調査

昭和58年5月～7月 日本道路公団四條畷職員住宅建設に伴う発掘調査

弥生時代前期の溝を検出。大型壺・壺・甕などの土器類と石庖丁・太型蛤刃石斧・土製紡錘車など

第2次調査

昭和60年10月～61年2月 駅生会脳神経外科病院建設に伴う発掘調査

弥生時代後期の周溝墓・竪穴住居、中期の方形周溝墓4基を検出。1号・2号の方形周溝墓から20基の組み合わせ式木棺墓を検出。

第3次調査

平成4年12月～5年3月 府立四条畷保健所建替工事に伴う発掘調査

弥生時代中期の方形周溝墓から死体を運ぶタンカと鳥形木製品、竪穴住居2基から舌形石製品、中期の竪穴住居11基を検出。その内の1基の住居は焼失家屋。

第4次調査

平成8年9月～10月 四條畷市公的住宅建設に伴う発掘調査 弥生時代中期の方形周溝墓、甕棺。

第5次調査

平成13年6月～9月都市計画道路建設に伴う発掘調査 弥生時代前期の溝を検出。

木棺ものがたり

